

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立 精華中 学校
最終更新日	2018年(平成30年)10月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり
- 児童生徒は素直で、ボランティアや地域の行事にも積極的に参加し、社会に貢献している。 - 学校の課題を詳しく示し、学校の取組の様子をさらに伝えてほしい。	- 規範意識は高く、言われたことに対して守ろうとする。 - 新体力テストでは75%以上の児童・生徒が県平均を上回っている。 - 自己表現力が弱く、分かりやすく話したり書いたりすることに課題がある。 - 地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現のための目標を達成するために粘り強く工夫しながら取り組んでいる。	よりよい生活や社会の実現のために、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
		中学校区として統一した取組等	自分の考えを、話す・書く等で表現させる。	根拠を持って考えを表現させる。	目標を決めて、最後までやり遂げようとさせる。	相手の立場に立って考え行動させる。

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり	
校区内での少子・高齢化の進展の中にあつての人材育成 ① 学力の定着と向上を図る。 ② 安心・安全で落ち着いた環境の中、豊かな感性を育てる。 ③ 地域の一員として、地域の行事に積極的に参加する生徒を育てる。		めざす子ども像	1年	日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している	より高い目標を達成するために、粘り強く取り組み、やりぬいている。	相手の立場に立って、誰に対しても思いやりの心を持って接している。
学校教育目標 夢と志を持ち、社会に貢献できる生徒の育成			2・3年	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現のための目標を達成するために粘り強く工夫しながら取り組んでいる。	よりよい生活や社会の実現のために、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
現 状							
＜児童生徒＞ ・素直であり、校内・地域でのボランティア活動にも積極的に参加している。 ・体育大会や文化祭等では主体的に活動できるが、日常的なボランティア活動等には自ら進んで考え行動する主体性に課題がある。		研究	教科等	道徳			
＜授業＞ ・ペア・グループを活用して、生徒どうして「わからない」が言え、学び合いができてつつあるが、思考を広げたり深めたりすることがなかなかできない。 ・進んで課題に取り組もうとするが、自分の考えと理由をうまく表現できない。 ・自ら考え学ぶ主体性に課題がある。			主題・内容等	自他を大切にし、認め合い高め合う生徒の育成 ～ 人権を尊重する授業づくり、人間関係づくり、環境づくり ～			
		めざす授業の姿	課題に対して、自ら進んで考え、仲間と関わり合い、練り合いながら協働的に課題を解決していく、一人も残らず学ぶ授業				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 精華中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	「自ら考え学ぶ 授業」づくりの推 進	★	新 規	課題に対して、自ら進 んで考え、仲間と関わり 合い、練り合いながら協働的に課題を解 決していく、一人も残 らず学ぶ授業づくりの 推進	①「解決したい」と思 わせる課題設定や導 入発問の工夫 ②目的を明確にした 「ペア」「グループ」 等の関わり合いの場 の設定	①「解決しようとする 課題について、『なぜ だろう』『やってみた い』と思う。生徒肯定 的評価 回答80%以上 ②「授業で、仲間と話 し合う等して、自分の 考えを深めたり、広げ たりしている」生徒肯定 的評価 回答80%以上 ③「学び合いで思考を 深めさせることがで きている」教職員肯定 的評価 回答100%以上	「課題発見・解決学 習」の単元開発に取り 組み、協働的な学 びを推進した。生徒 の肯定的評価は、① 71.8%(達成率 89.8%)、②80.9% (達成率101%)で ある。③についての 教職員の肯定的評価 は75.0%(達成率 75.0%)である。	3	3	①市内一斉研修で学 んだことを振り返り、授業実践に生か すために、学んだこ とを交流、研修する。 ②発問強化週間で自 分の授業を見直し、 改善を図る。また、 「問い」について交 流、研修する。 ③道徳や教科の課題 発見・解決学習の先 進的な実践者を講師 に招聘し、校内や校 区で研修し、自分の 授業に取り入れる。					
				主体的に読書活動に 取組む生徒の育成	①「おすすめ本」紹介 文の作成 ②グループ交流の場 の設定 ③プレゼンの場の設 定	「おすすめ本」を持 ちプレゼンできる生 徒100%	①「おすすめ本」紹 介文を授業で作成し 掲示した。 ②小中で交流し本校 文化祭で交換した。 ③図書委員会が文化 祭で発表した。	4	4	主体的に読書をし、 相手や目的を意識し ながら工夫して本の 魅力を発信できるよ う自発的に広がり のある読書活動、読 書習慣へつなげてい く。					
1	「自ら考え判断 し行動できる」生 徒の育成	★	新 規	積極的に他者と協力 しながら清掃活動 を行う生徒の育成	重点箇所以外に掃 除できる場所を自 ら探して取り組ませ る	「掃除をするときは 自ら仕事をみつけて います」「掃除する ときは協力していま す」90%以上	掃除をするときは、 自ら仕事を見つけて います。肯定的評価 は81.7%(達成率 90.8%)。掃除 をするときは、協力 しています。肯定的 評価は90.9%で ある。(達成率： 101.4%)	4	4	帰りのHRで、翌日 の清掃重点目標を考 えさせることを通し、 生徒の主体的な活動 を推進する。					
				主体的にボラン ティア活動が行える 生徒の育成	クラスの中で時期 に応じて、必要な 場所・準備物を決 めて取り組む	「ボランティア活動 では自分で考えて判 断し行動できた」生 徒肯定回答90%以上	ボランティア活動 では自分で考えて判 断し行動できた。肯 定的評価は94.5% である。(達成率： 100.4%)	4	4	毎月1回以上のボ ランティア活動を継 続する。ボラン ティア活動の中身を 充実させ、生徒が・ 主体的に活動(場所 を自分たちで決め 活動の流れを考 える)できるよう 仕組んでいく。					
				主体的に環境 づくりに取組む 生徒の育成	生徒会委員会・教 科係が生徒の学習 意欲を喚起する 掲示物を作成する。	年間5回、新しい 掲示物を作成する。	生徒会委員会や教 科で掲示場所を割 り振り、活動の様 子を掲示している が、前半平均1回 ずつしかできて いない。達成率 は20%である。	2	2	生徒たちの活動の 様子等、掲示物を用 い視覚化する。今 後も生徒会委員 会や教科係が主 体的に取り組む ことができるよう 仕組んでいく。					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。